

第13回等々力緑地再編整備検討委員会 議事録

開催日時 平成22年7月20日(火)15:00～17:00
開催場所 川崎市役所第3庁舎18階大会議室
出席者 涌井委員長、赤地委員、川島委員、渡辺委員、藤村委員、中野委員、岩森委員、
尾澤委員、佐藤委員
小野室長、野本室長、原田部長、高田理事、金子部長、本多部長、山崎副区長
議 題 1 今後の検討スケジュールについて(公開)
2 大規模施設以外の整備の方向性について(公開)
3 その他(公開)
傍聴者 6人
会議内容

委員長あいさつ

涌井委員長	<p>今回は、等々力緑地の一般的な施設について思いの丈を話していただいた。これは非常に重要な議論であり、スポーツ施設だけとっても配置の議論や川崎市全体のバランスの議論など、広域的に影響を与える議論であった。また、施設規模が大きいこともあり、引き続きさまざまな形で具体的、個別的に積み上げをしながら、次回総合的なまとめを図っていく。</p> <p>今回、とりわけ市民から強く要請のある、まちづくりと密接・不可分な身近に親しめる取組のファクター、防災のファクターなど、さまざまな大規模施設以外の本来の公園の有用性についての未検討課題を出してもらっている。これらについての検討をした上で、個々の施設と今日の問題を絡めながら、バランスのある決着をつけていきたい。</p> <p>9月に基本計画を取りまとめるので、今回漏れがない議論を進めたい。今後については、検討スケジュールで説明があると思うが、いよいよ大詰めなので、後ほどスケジュールも御覧いただければ。</p> <p>大規模施設以外の施設も、公園のありようについて整備の方向を再度検証する。この委員会でも、当初から武蔵小杉を含め、まちづくりと公園の関係、あるいは川崎市全体の広域と公園が担う機能を整理してきた。この整理の延長線上で、もう一度そこに立ち戻り、本来公園の持つべき機能を振り返りながら大規模施設以外の施設整備の方向性について改めて検討し、ひとつの結論を得たい。</p> <p>まずは、今後の検討スケジュールについて説明いただく。</p>
-------	--

1 今後の検討スケジュールについて

事務局	検討スケジュール説明
涌井委員長	<p>大規模施設を除いて他の機能を考えられないということもあるかもしれないが、公園に求められているものはいろいろあり、配置の議論は置いておいても基本的な機能をどうするか、ある程度結論を出さなければいけない。</p> <p>今回欠席されている吉房委員から、公園の中で花と緑を市民でつくるという御意見をいただいているので、まずは御披露願いたい。</p>
中原区役所 副区長	<p>吉房委員から案の概略を賜ってきたので、説明させていただく。</p> <p>参考資料の2、花づくりの拠点としての緑地の有効活用についての提案。委員は長年町連の会長を務める傍ら、町内の美化活動など市民活動に熱心で、特に美化活動については、清掃だけでなく花を育ててまちをきれいにする等、みどりいっぱいのもちにしていくという思いを持っている。それが今回のアイデアに結びついたのだろう。</p> <p>提案としては、川崎市の花弁園芸の振興、市民が花卉づくりに参加し学べる場の創設などが狙い。背景として、中原区はパンジーの花弁農家で有名であり、等々力も中原区内であることから、中原の名産品を背景にこういった活動とも整合性が図れるのでは。それから、各区ともに美化活動に力を入れており、まちを花で彩るという活動もあちこちで見られる。また、各家庭でも趣味で花を育てている方が川崎市内全域で多数おられるところをあわせて、等々力緑地内での花づくり体験、自分たちで学べて実際に育てる場所を作り、その指導には花卉農家の方にも入ってもらい、花卉園芸の振興も兼ねて行う。講座の実践とあわせて拠点内の景観づくりを行う。現在ある花壇の一部分を市民が学びながら育てていく。公園に遊びに来る方の憩いの場にもなるし、携わる市民も花栽培の技術を身につけたあと、それぞれの地域の美化活動・まちの緑化に役立ててもらおうことで市民ボランティアを育てていくというもの。</p> <p>「世田谷フラワーランド」のイメージから今回の提案となった。無農薬、有機肥料など、花卉栽培の実践のほか環境教育にも目を向けているとうかがっている。</p>
涌井委員長	<p>御提案のとおり、かつて川崎市は戦後から昭和40年初頭まで多摩川中下流域において花卉園芸でかなりの産業振興をしてきた歴史がある。吉房委員のように川崎の風土史に詳しい方や川崎市民のニーズを投影した提案であり、花・みどりに対する市民の渴望の度合いをひとつの尺度にして、委員の皆様にも御検討いただきたい。</p>

2 大規模施設以外の整備の方向性について

事務局	資料説明 (2~3 ページ：等々力緑地内の施設・広場の現況、利用状況について)
涌井委員長	<p>施設の利用状況について、御質問や実態は違うといった御指摘があればいただきたい。</p>
赤地委員	<p>3 ページの利用状況の補助競技場について、7月3・4日に県陸上選手権が行われた。大会後のまとめ会で、県陸協から非常に大きな大会でも補助競技場と必ずしも連動して使えないという意見が出たと聞いた。御覧のように、サッカー、ラグビーとの兼ね合いがあると思うが。</p> <p>これから先も、市民大会、高校の市内の大会レベルであれば、サブ競技場が必ずしも使えないのは仕方がないが、県選手権やスーパー陸上などの大きな大会では、サブ競技場も含めて使用したい。今後、今以上に県陸協からも意見が出てくるように思う。</p>

涌井委員長	サブ競技場があつてはじめて第一種公認と言える、ということ。
事務局	資料説明（4 ページ：オープンスペースの利用状況）
涌井委員長	（4 ページ右下の●等々力緑地に対する要望施設等に対して）この要望というのは、議会に対する陳情という意味か。
事務局	ドッグラン、パークゴルフ場、フットサルは議会から質問という形で要望があつた。少年野球場は平成6年11月に請願が出ており、採択されている。野外音楽堂は検討委員会での要望。
涌井委員長	今日吉房委員から提案があつたことも次回の資料に反映させていただきたい。
事務局	了承。資料説明（5～18 ページ）
涌井委員長	12 ページ（防災）は最後に説明したほうが良い。広域的な話と等々力緑地内の話とゴチャゴチャになる。14 ページ以降について先に説明していただきたい。
涌井委員長	御質問その他いかがか。
佐藤委員	私のところに要望があつたのでその旨をお伝えしたい。今、小杉や溝の口駅などで若い人たちが2、3人のグループで楽器の練習や演奏をしている。ミュージアム前の広場でも、昨年一度午後6時から9時半までコンサートを行ったが、楽器の音がうるさいと苦情が来た。実際、場所としては良いが利用者には使いづらいと言われている。市からも何時から何時ごろまで楽器を使ってよいと許可がもらえれば利用しやすい。普段駅前でやっている人が、一年に一度でも二度でもコンサートを開ければ、若い人とともにひとつの喜びを分かち合えるのではないか。冬は無理だが、夕涼みに出られるような気候の時に、そういう催しに利用できるよう皆様に御配慮いただきたい。
涌井委員長	川崎のストリートミュージシャンは幸せ。地域代表の方が嫌がらずに、是非そういうものをやれとおっしゃっていただいた。さすが音楽のまち。
渡辺委員	日常的に交流があるのは良いと思う。ゆずがストリートミュージシャンとしてブレイクしたように、等々力の風物詩として、等々力をひとつのベースとしてフェスティバルみたいなものを育てようという機運があるのなら、そういう形に持ってくということは十分あると思う。ステージ上でなくても、公園の中にそれぞれのシーンが散りばめられて、公園自体を新しい形のフェスティバルの場として秋などにやるのであれば、十分可能性はあるのでは。
涌井委員長	公園のひとつの宿題であるので、こういうことも参考として入れておいてはどうか。私から少し。先ほど生物多様性、エコロジカルネットワークの話があつたが、次のページにブルーギルと書いてある。池の整備方針の中に外来種の駆除について記述がない。前ページのエコロジカルネットワークの記述と矛盾しているのではないか。
事務局	御指摘のように釣池の中にブルーギルなどの外来生物がいるのは事実。現在公園緑地協会に管理運営を委ねており、そういったものを釣ったときは戻さないでほしいと啓発しているが、実際には一度放たれると撲滅するのは難しい。今後は池の浚せつ、水質浄化をやることも考えている。そういう部分で外来種の撲滅も考えている。
涌井委員長	前にエコロジカルネットワークと書いておきながら、ここでブルーギルと出てくるのは、川崎市は何を考えているのかとなりかねない。少なくとも、池の水質を浄化するためには浚せつして中乾ししないととても無理だと考えている。その際に釣池の良好な生態系の構築も是非目指してほしい。

涌井委員長	外来種の問題について、多摩川はタマヅン川と言われているほど。それを釣池の中で同じように繰り返すのは実に不都合なので、そこ（ブルーギルの記述）は消されたほうが良いのでは。
事務局	外来種についてはよく多摩川の話があがるが、漁協の方が市内でおさかなポストというものを設置している。稲田公園にあり、これまでは、自分の家で飼えなくなった魚を多摩川に放流してしまう方が多かったが、それを入れられる場所をつくった。また、そういう魚を欲しい人に譲る取組もしている。
涌井委員長	そういうことをやっているだけに、釣池がそういうこと（外来種などが問題）になることは不都合だと思う。
中野委員	釣池について今までお話しする機会がなかったが、少しお話させていただきたい。ここ（魚類の記述）では抜けているが、タイリクバラタナゴは現在もいて、今ではほとんど固有種になっている。このタナゴがいるということは、必ず貝もいるはず。ヘドロの中にいるのは珍しいが、浚せつするとき是非そういうのも大事にしてほしい。それから、できるかどうかかわからないが、市臨海部を埋め立てたときに、カッターヘッドで海の土の砂泥を巻き上げて、その砂を使って全部埋め立てをしている。同じように、池を浚せつするとき小さなカッターヘッドを池の中に入れて、ヘドロを全部吸い上げる。場所が問題だが、例えば池の一部を仕切って全部吸い上げて乾かす。1mのヘドロも完全に乾かせば10cmくらいになる。是非研究をしてほしい。ここはもともと多摩川の川原だから、ヘドロがなくなれば湧水が出るはず。池の水が足りなければ、今江川に流している下水処理場の高度処理水を使ってほしい。聞くところによれば、高度処理水はきれい過ぎてここに流すにはいろいろな問題が出るという話がある。もし問題があるなら、ふるさとの森のてっぺんに一か所たまり場をつくり、森の中に砂利の川をつくってミニ多摩川のように水を流し込めば、プランクトンも発生してよいのでは。そういうこともしてほしい。
涌井委員長	非常に有意義な御指摘。川崎市の下水処理技術は世界有数なので活用する術はないかと以前申し上げたことがあるが、是非検討いただきたい。
川島委員	皆さん御承知のように現在夏の高校野球をやっている。頑張っている川崎にある高校の野球の試合を、地元でやらせてあげたい。しかし、4回戦からは球場の収容人数が1万5千人以上でないと開催は不可能。川崎でその規模の球場を確保してほしい。
岩森委員	多摩川の活用について、多摩川のほうにも緑がある。9ページを御覧いただきたい。右下の図にある等々力と多摩川の連携は、現状では分断されているが将来的につなげていく（黄色の点線矢印）ところ。ここはいろいろな意味合いで研究をしていただいて、生態系的にも横への広がりが増すと思うので、是非よろしくお願ひしたい。
涌井委員長	まことにその通りだと思う。多摩川とのコリドーを整備してほしいということで、今ある民地の緑化率を高めるさまざまな方法があると思うので、それも示唆してほしい。関連した質問だが、4、5ページについて、緑が豊かで憩いのある風景があると言うような趣旨が書かれているが、一万以上の公園を見てきた中からあえて申し上げると、私の印象は隙間の緑がバラバラとあるだけ。公園の質としては施設を詰め込んだ残りのかわいそうな公園としか見られない。その辺りについて、事務局の皆さんはどのような認識か。

事務局	御指摘の通りだと思う。等々力緑地は市街地に近いので、緑地本来の他にどうしても施設系が入ってきてしまう。地域性もあるので、本当は緑を活かして一体的に良い公園ができればよいが、等々力緑地の経緯もあるので、今後再編整備の中で一箇所に集めたいが、それぞれの施設の配置状況もあるので検討したい。
涌井委員長	渡辺委員が「究極の幕ノ内弁当」と言っていたが。
渡辺委員	<p>民地の中に入れてしまったので、時代とともに埋めざるを得なかった。これが美味しいかということ、なかなか難しいところだが。先ほどの皆さんの要望・稼働率を見ると結構使われて愛着をもたれているので、どう判断をしてそれに対してコメントを言えばよいのか。施設を切り離して必要なものを別の所へもっていくのか。意見は言えるが、地元のニーズ・愛着を考えるとどうなのか。</p> <p>プール自体も機能をどこまで変えていくのか。</p> <p>いろいろな縦と横のラインが錯綜する。その辺りをどう捉えていくのか。しがらみを考えると難しいという印象。</p> <p>公園としてみると、やはり物足りないということもある。</p>
涌井委員長	<p>個人的な提案だが、ここにあるすべてのものを詰め込むのではなく、なくてはならないものとなくともよいものを整理しながら、立体・複合で考える。例えば、大規模な競技施設は防災にも対応できる。一方で他の施設をその中にビルト・インすることも不可能ではない。日常の健康運動に使う施設も、じゃぶじゃぶ池も上手くやればビルト・インできる。園路も、今は平面で考えているが、立体・複合的に各施設を結ぶことを考え、園路を高いレベルまで持ち上げれば、下部構造がさまざまに使える。</p> <p>大規模施設の議論の中にも出てくるが、管理の形態を考えると、イベント・大会時以外の稼働率をどう上げるか。使われなくても、市民・市外の人が訪れる、こういうスポーツをしている場所なのだ、と楽しめる。</p> <p>立体・複合的なことを考えてオープンスペースを増やす方法を考えることが重要。</p> <p>幕ノ内でよいが、今は平面の弁当に詰めている。二重にすれば可能性も出てくる。公園は、日ごろは何の機能もないように見えるが、何かあったときに存在効果を発揮する。例えば、10万人の方がここに避難できると試算があるが、これは大変なこと。武蔵小杉の熟度がどんどん上がっていくことになれば、なおさら広域避難地としての機能が求められる。この地区だけでなく、川崎市全体の救援活動・復旧活動にこの場所が使われる可能性がある。</p> <p>一方で、エコロジカルコリドーを形成するために重要な役割を示す。川崎市全体で見ると、大規模公園は3箇所あるが、その他は残念なことに児童公園などガンと小規模になる。密集市街地も非常に多い。技術的な方策を考えることも重要。</p> <p>児童公園についての話も少し古い気がする。先ほどの（人口推計データ：16ページ右下）就学前の児童の人数はそんなに変わっていない。一方、高齢者の数が増えていく。今老稚園という言葉がある。幼児と高齢者が一緒にくつろげる場所。就労形態を考えると、今までは核家族だったが、おじいちゃんおばあちゃんが孫の面倒を見ることで、若手が就労していくケースが非常に出てくると思う。こうした時に、おじいちゃんおばあちゃんが、自身の健康につながるという意味もあるが、お孫さんの面倒を見られる場所はやはり公園だという意見もある。お互いが家族のコミュニケーション・絆を</p>

<p>涌井委員長</p>	<p>つくっていくことにもなる。児童公園は、従来のように児童・幼児が遊ぶだけでなく高齢者の方も来て十分目が行き届いて、なおかつ御自身の健康も維持できるような複合機能が必要なのでは。そのためのユニバーサルデザインがないと面倒見るのは大変だが、そういうことを上手にやっていければよい。それから、今度は地域コミュニティの中で、高齢者が、自分の孫でなくても、学校の通学時の見回りのような形で手助けすることがあれば望ましいのでは。</p> <p>キャッチボールができる公園づくりというのがある。プロ野球選手は40歳を過ぎると引退して高齢者になる。選手にとってユニフォームは誇りの象徴であり、かつて所属していたチームのユニフォームを着て公園でキャッチボールを指導していただくと、かつてのプロ野球選手の方がたが、子供たちにとって良い指導者となるケースがある。キャッチボールとは、球を投げるだけではなく、相手が捕りやすいような球をハートに向かって投げるハート同士のキャッチボールだ、ということをおっしゃる。そういう場所を考えていく意味では、高齢者と子供たちが一体的にくつろげる場所を整備するイメージをしておかないと、従来の児童公園があればよいというのは賛成できない。</p>
<p>藤村委員</p>	<p>初めて等々力緑地を訪れたとき、サッカーを見に来たのだが、正面広場でバスを降りて、広場を抜けて陸上競技場に向かいながら不思議な空間だと感じた。公園の入り口のような顔をしているが、すぐ次に車が通る道がある。今いろいろな角度で資料を見ていて、正面広場はなんとなく分離されていて、公園の一部といいながら全体の中に魅力的に組み込まれていない。</p> <p>吉房委員が御提案されていた花の話だが、ドイツにクラインガルテンという活動があるが、その日本版という印象を受けた。そういうことが等々力緑地を使ってできるようになれば素敵なことだと感じた。</p>
<p>涌井委員長</p>	<p>環境コミュニケーションをつくる上で有益だが、それぞれの公園でやられて、どこかに総本山をつくらないとネットワークができない。</p> <p>防災の図面、大会・イベントの図面、駐車場・園内交通がリンクしないといけない。つまり、発災時にどこからどういう風に避難するのか、どこから公園にアクセスするのか。そこに駐車場があった場合、それが炎上したりしてハザードにならないか。あるいは、園内の避難経路が十分か。例えば自衛隊がトラックで来たとき、仮設以前の緊急避難所の居住スペースとうまく園路が分離できるか。これらのことは、技術的に相当検討しなければならない。それがバラバラに考えられるとよくない。一度基本的な、例えば、ここにある発災から復旧までの図面を中心にして、これに大会のシミュレーションを重ねると、どこがメインなのか等ほぼ似たようなことが見出せる。</p> <p>そういったこと、将来のアクセス等を考えると、やはり正面の入り口は立体・複合化しないとアクセスが悪くなってしまう。避難時も危なくなりかねない。</p> <p>そういったことも次回の委員会の時まで少し技術的に整理していただきたい。</p> <p>それぞれの施設へアプローチするために、駐車場が施設の近くにあるというのはわかるが、それ以上に市民の生存権を確保することを考えて駐車場の検討をしていただきたい。アクセス以前の基盤的な問題を整理していただかないと、再編整備計画のときにはそれがうまく機能してこない。あそこに駐車場があつて火が燃えていて避難できなかったとあれば、後世に顔向けができない。</p>

涌井委員長	野球場は1万5千人収容できる場所は等々力内になくても、他にあればよいのか。
川島委員	問題ない。
高田理事	参考までに、市内の公立高校はグラウンドが狭い。日にちを決めて等々力野球場をローテーションで使っている。それも考慮してほしい。仮に新たに造るとき、我われとしても検討しないとイケない。
川島委員	等々力は立地条件が良い。応援団もいくらやっても苦情が来ない。アクセスも、高校生くらいなら程よい距離で買い物もできるし場所が良い。もし他の場所に野球場を新設するのであれば、思い切り応援できる場所が良い。例えば藤沢の球場は隣に病院があつていっさい応援できない。1、2回戦は行うが、高校生らしくない物静かな大会となってしまう。その辺は是非考慮してほしい。
涌井委員長	宮崎県の高校野球の無観客試合のように、かわいそうなことがあつてはいけない。おっしゃる通り。是非その辺りを考慮してよい案を作ってください。 今日ここで皆さんに御認識いただいたことは、幕ノ内弁当と言えども等々力緑地はもともとはそうではない。エコロジカルネットワーク機能や防災の機能など、ちゃんとした存在機能があり、それらが分断された結果になつてはいけない。再編整備をする以上は、存在効用の機能をより発揮できるように、各施設が効率よく、川崎市を代表するような方向で考えられる方策を推敲していただきたい。それが次回の委員会でひとつの答えとして出てくるということだと思つるので、その点を御検討いただきたい。ワールドカップを日本へ招致するときに、等々力とは関係があるのか。
川崎市	日韓大会のときにキャンプ地に立候補したことがある。残念ながら選ばれなかったが、また日本で開催することがあれば、キャンプ・練習地に立候補したい。その際に会場となるのは、やはり等々力陸上競技場となる。それから、第1・2サッカー場あたりが練習場となると考えている。
涌井委員長	12月にFIFAが結論を出す。その前に日本としてもプランを詰めていこうから、意思表示をしないとイケない。本委員会にも若干関係するのではと思つて質問した。それでは事務局にお返りする。
事務局	次回委員会は8月下旬を予定している。詳細は追つてご連絡する。 本日はありがとうございました。